

「豪雨災害に関する意識」についてのアンケート結果

県では、どのような洪水にあっても、“人命が失われることを避ける”や“生活再建が困難となる被害を避ける”ことを目的に、河川整備や維持管理などのながす対策をはじめ、水害にそなえ、被害を最小限にとどめる対策を県民の皆さんと協働で取り組む「流域治水政策」を推進しています。

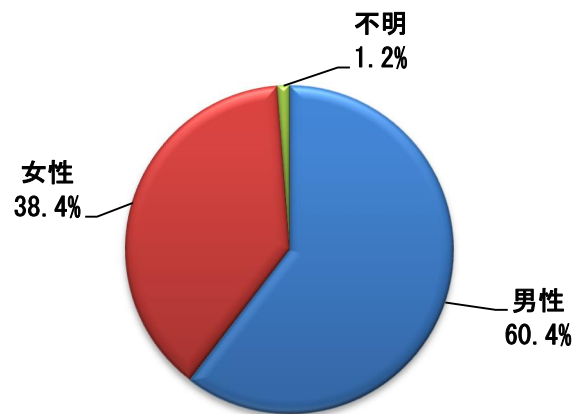
県民のみなさんの豪雨災害に関する認知度について把握し、今後の施策検討の参考とする目的でアンケート調査を実施しました。

- ★調査時期：平成30年11月
- ★対象者：県政モニター 395人
- ★回答数：328人（回収率83.0%）
- ★担当課：土木交通部 流域政策局 流域治水政策室

(※四捨五入により割合の合計が100%にならない場合があります。)

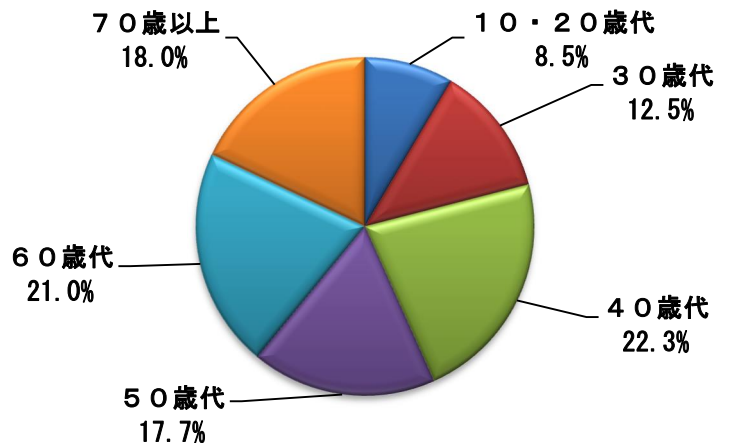
◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	198	60.4
女性	126	38.4
不明	4	1.2
合計	328	100.0



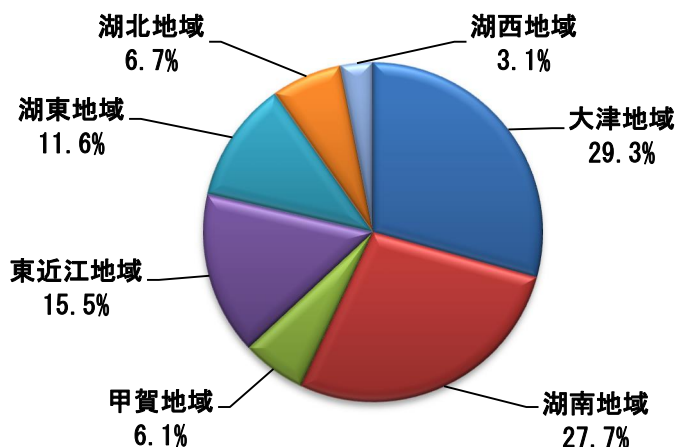
◆年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	28	8.5
30歳代	41	12.5
40歳代	73	22.3
50歳代	58	17.7
60歳代	69	21.0
70歳以上	59	18.0
合計	328	100.0



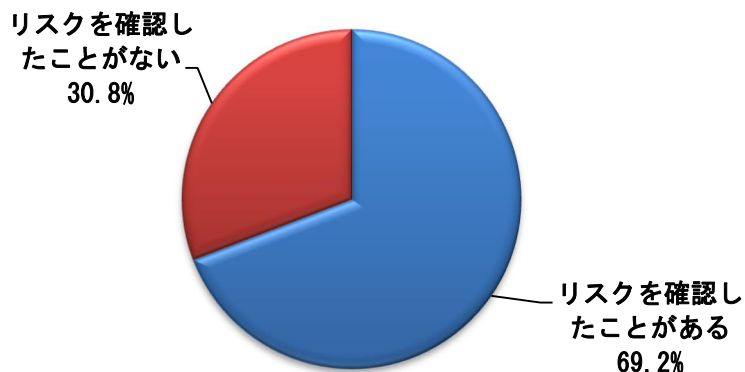
◆地域

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	96	29.3
湖南地域	91	27.7
甲賀地域	20	6.1
東近江地域	51	15.5
湖東地域	38	11.6
湖北地域	22	6.7
湖西地域	10	3.1
合計	328	100.0



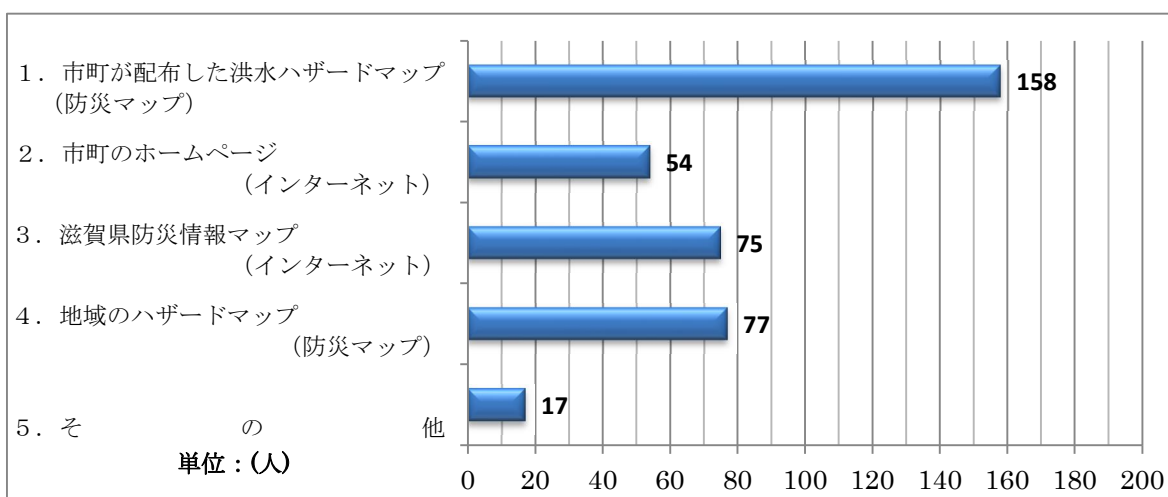
問1 近年、全国各地で水害や土砂災害が毎年発生しており、報道等により事前にリスクを確認するよう広報されているところですが、あなたは御自宅のリスクを確認したことがありますか。(回答チェックは1つだけ n=328)

項目	人数(人)	割合(%)
リスクを確認したことがある	227	69.2
リスクを確認したことがない	101	30.8
合計	328	100.0



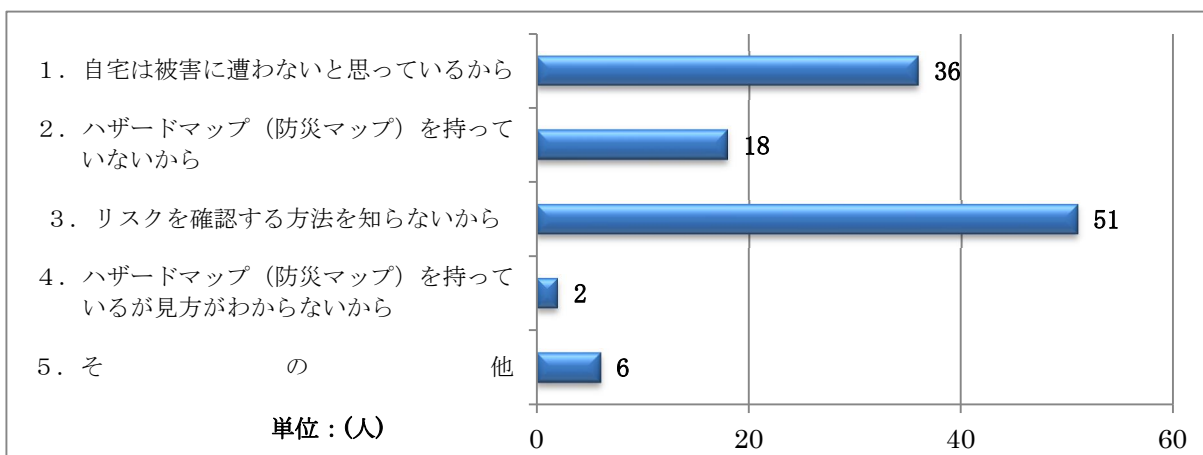
問2 問1で「1. 自宅のリスクを確認したことがある」と回答された方にお聞きします。それはどのような方法で確認しましたか。(回答チェックはいくつでも n=227)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 市町が配布した洪水ハザードマップ (防災マップ)	158	69.6
2. 市町のホームページ (インターネット)	54	23.8
3. 滋賀県防災情報マップ (インターネット)	75	33.0
4. 地域のハザードマップ (防災マップ)	77	33.9
5. その他	17	7.5



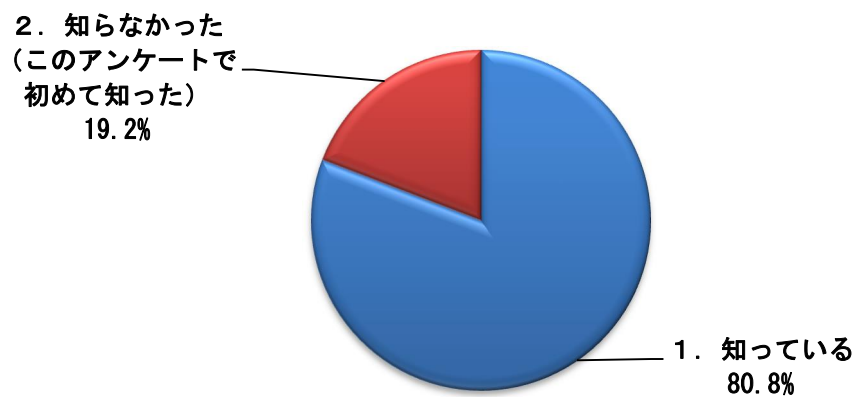
問3 問1で「2. リスクを確認したことがない」と回答された方にお聞きします。自宅のリスクを確認しない理由は何ですか。(回答チェックはいくつでも n=101)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 自宅は被害に遭わないと思っているから	36	35.6
2. ハザードマップ (防災マップ) を持っていないから	18	17.8
3. リスクを確認する方法を知らないから	51	50.5
4. ハザードマップ (防災マップ) を持っているが見方がわからないから	2	2.0
5. その他	6	5.9



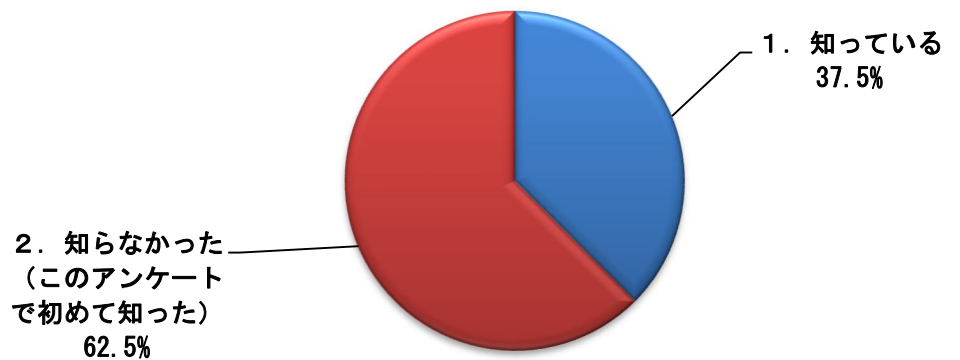
問4 浸水する原因は大きな河川の氾濫による浸水（外水氾濫）以外に、用排水路や小さな河川の氾濫により浸水（内水氾濫）する場所があることを知っていますか。（回答チェックは1つだけ n=328）

項目	人数(人)	割合(%)
1. 知っている	265	80.8
2. 知らなかった（このアンケートで初めて知った）	63	19.2
合計	328	100.0



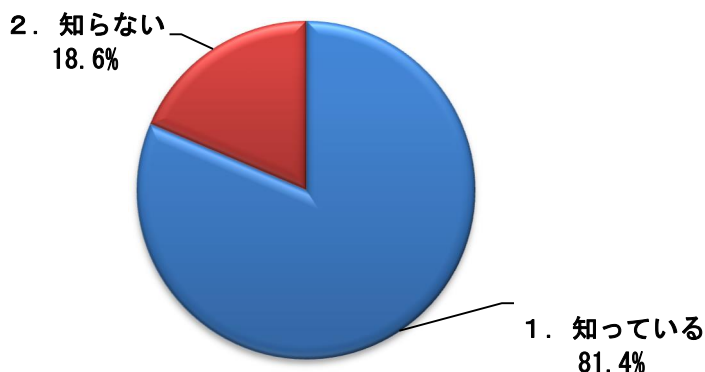
問5 滋賀県では、大きな河川の氾濫だけではなく身近な水路や小河川の氾濫も含めた「地先の安全度マップ」という水害リスク図を公表しています。あなたは、「地先の安全度マップ」を知っていますか。（回答チェックは1つだけ n=328）

項目	人数(人)	割合(%)
1. 知っている	123	37.5
2. 知らなかった（このアンケートで初めて知った）	205	62.5
合計	328	100.0



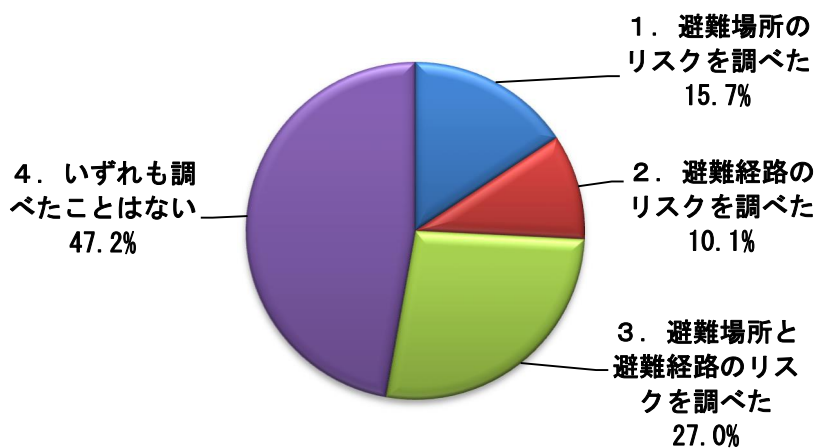
問6 あなたは、豪雨災害が発生した場合に、市町が指定する避難場所を知っていますか。(回答チェックは1つだけ n=328)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 知っている	267	81.4
2. 知らない	61	18.6
合計	328	100.0



問7 問6で「1. 知っている」と回答された方にお聞きします。
避難場所や避難経路のリスクを調べたことがありますか。
(回答チェックは1つだけ n=267)

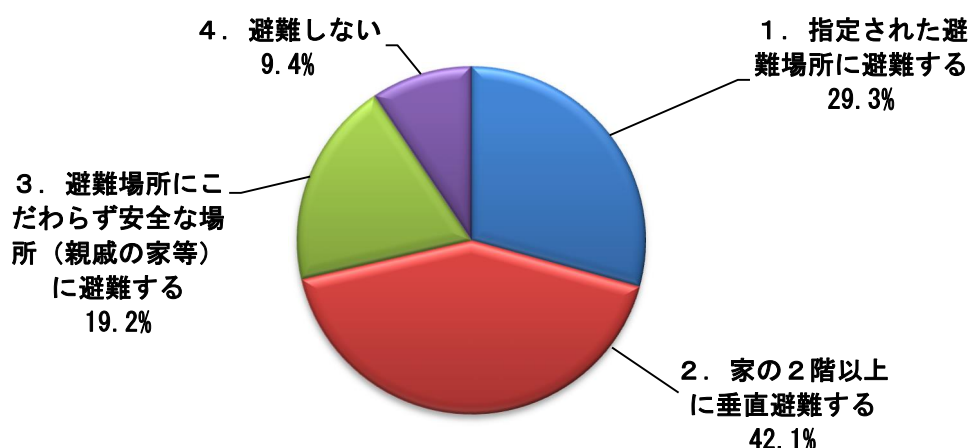
項目	人数(人)	割合(%)
1. 避難場所のリスクを調べた	42	15.7
2. 避難経路のリスクを調べた	27	10.1
3. 避難場所と避難経路のリスクを調べた	72	27.0
4. いずれも調べたことはない	126	47.2
合計	267	100.0



問8 豪雨により自分の周りで水害や土砂災害の危険性が高くなってきた場合、どのような行動をとると思いますか。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。

(回答チェックは1つだけ n=328)

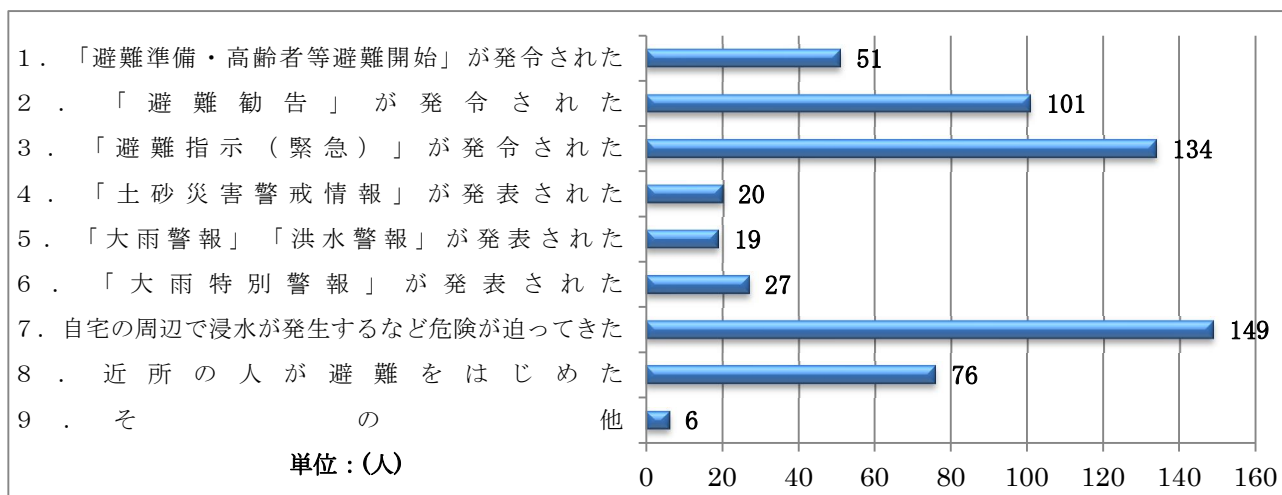
項目	人数(人)	割合(%)
1. 指定された避難所に避難する	96	29.3
2. 家の二階以上に垂直避難する	138	42.1
3. 避難場所にこだわらず安全な場所(親戚の家等)に避難する	63	19.2
4. 避難しない	31	9.4
合計	328	100.0



問9 問8で「1. 指定された避難場所に避難する」「2. 家の2階以上に垂直避難する」「3. 避難場所にこだわらず安全な場所(親戚の家等)に避難する」を選択された方にお聞きします。

避難を開始するタイミングはいつですか。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。(回答チェックはいくつでも n=297)

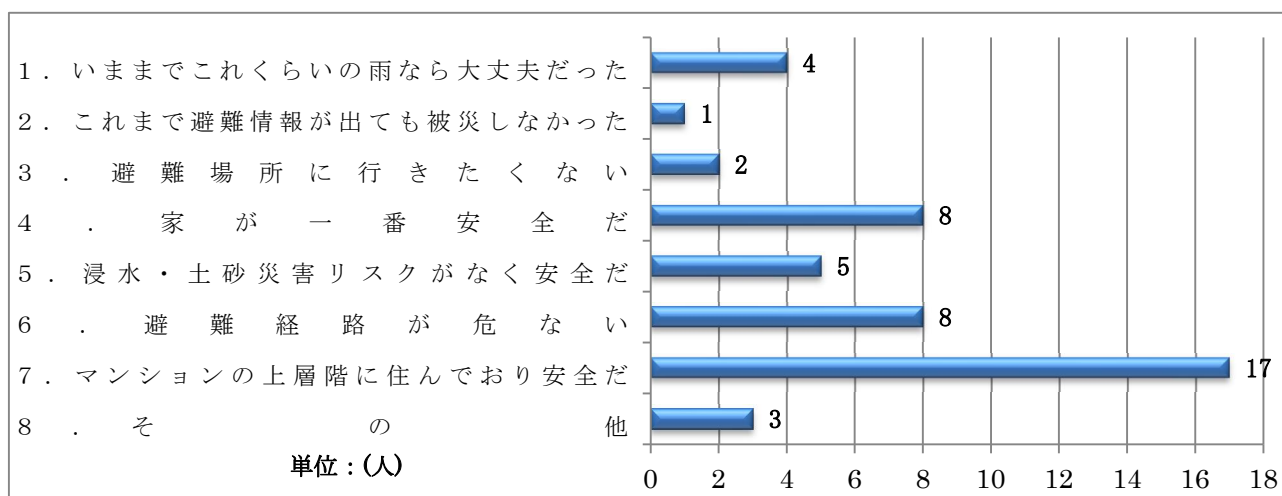
項目	人数(人)	割合(%)
1. 「避難準備・高齢者等避難開始」が発令された	51	17.2
2. 「避難勧告」が発令された	101	34.0
3. 「避難指示(緊急)」が発令された	134	45.1
4. 「土砂災害警戒情報」が発表された	20	6.7
5. 「大雨警報」「洪水警報」が発表された	19	6.4
6. 「大雨特別警報」が発表された	27	9.1
7. 自宅の周辺で浸水が発生するなど危険が迫ってきた	149	50.2
8. 近所の人が避難をはじめた	76	25.6
9. その他	6	2.0



問10 問8で「4. 避難しない」を選択された方にお聞きします。避難しない理由は何ですか。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。

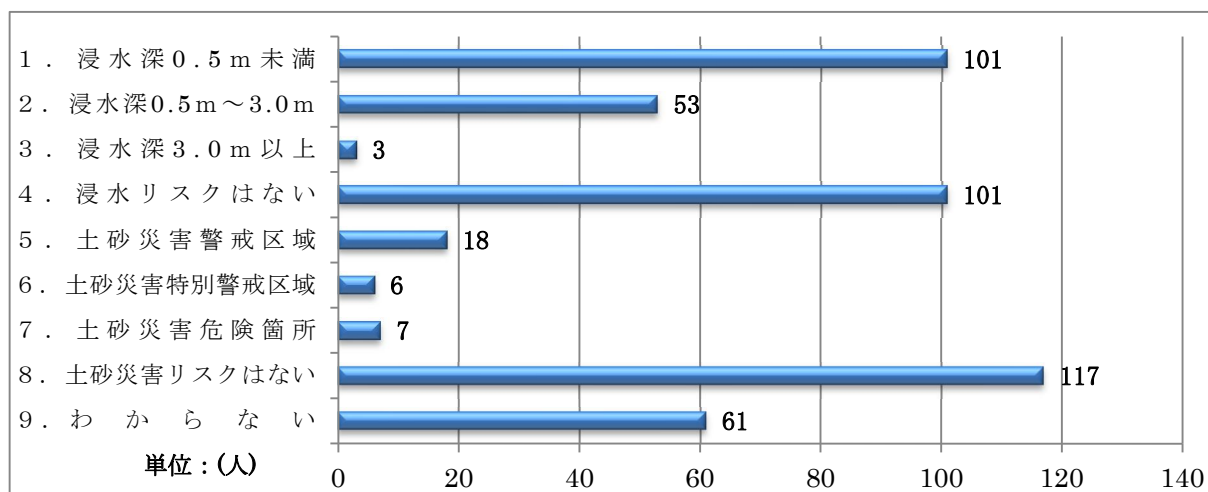
(回答チェックはいくつでも n=31)

項目	人数(人)	割合(%)
1. いままでこれくらいの雨なら大丈夫だった	4	12.9
2. これまで避難情報が出ても被災しなかった	1	3.2
3. 避難場所に行きたくない	2	6.5
4. 家が一番安全だ	8	25.8
5. 浸水・土砂災害リスクがなく安全だ	5	16.1
6. 避難経路が危ない	8	25.8
7. マンションの上層階に住んでおり安全だ	17	54.8
8. その他	3	9.7



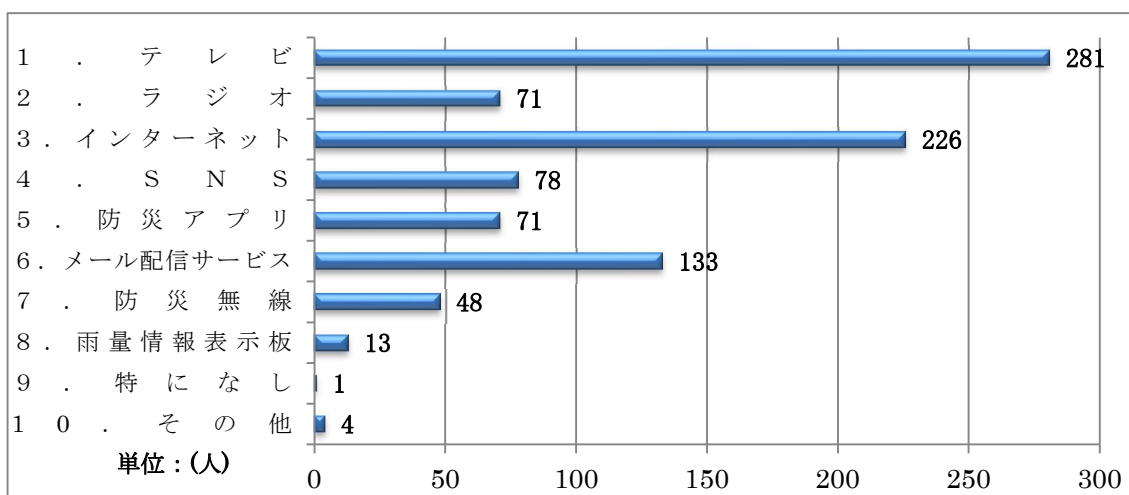
問 11 問 1、問 7 の補足として、下記 URL の操作方を参考に滋賀県防災情報マップを用いて、自宅の浸水リスク、土砂災害リスクを御確認ください。自宅の浸水リスク、土砂災害リスクはどれに該当しますか。(防災情報マップへは、資料内の URL から御覧いただくことも可能です。)(回答チェックはいくつでも n=328)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 浸水リスクは浸水深 0.5m未満である(床下浸水)	101	30.8
2. 浸水リスクは浸水深 0.5m~3.0m未満である(床上浸水)	53	16.2
3. 浸水リスクは浸水深 3.0m以上である(2階浸水)	3	0.9
4. 浸水リスクはない	101	30.8
5. 土砂災害警戒区域(指定済:黄色、指定前:緑色)に該当する	18	5.5
6. 土砂災害特別警戒区域(指定済:赤色、指定前:青色)に該当する	6	1.8
7. 土砂災害危険箇所に該当する	7	2.1
8. 土砂災害のリスクはない	117	35.7
9. わからない	61	18.6



問 12 豪雨災害時の情報取得手段としてよく活用しているものを教えてください。(回答チェックはいくつでも n=328)

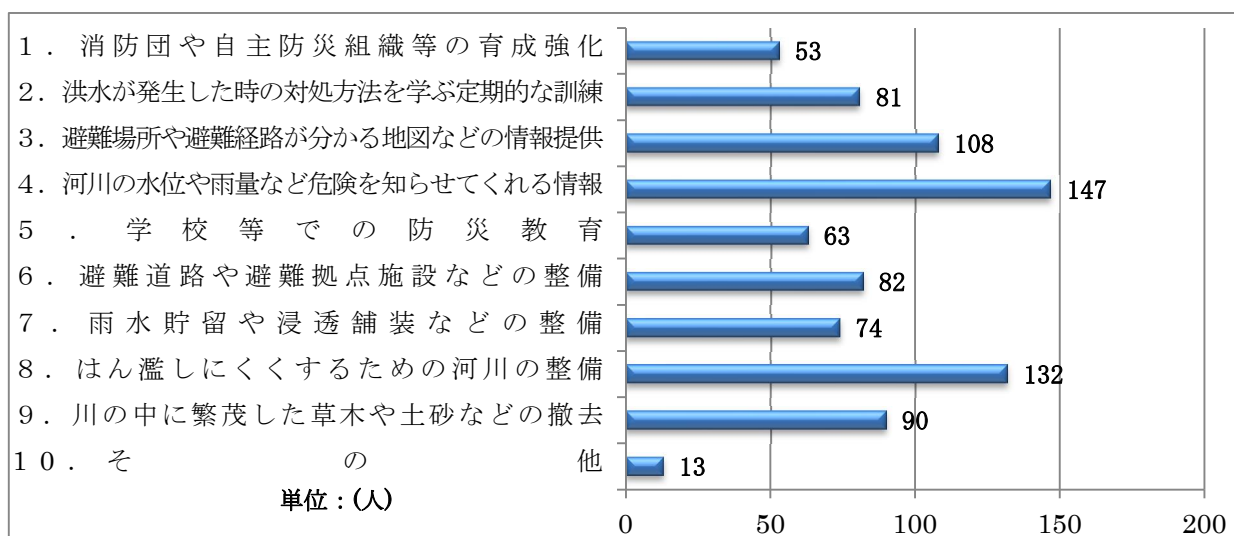
項目	人数(人)	割合(%)
1. テレビ	281	85.7
2. ラジオ	71	21.7
3. インターネット(webサイト閲覧)	226	68.9
4. SNS(ツイッター、フェイスブック等)	78	23.8
5. 防災アプリ	71	21.7
6. メール配信サービス(しらがメール、市町のメール配信サービス)	133	40.6
7. 防災無線	48	14.6
8. 道路沿いなどにある雨量情報表示板	13	4.0
9. 特になし	1	0.3
10. その他	4	1.2



問 13 洪水から命や財産を守るため、あなたは県や市町の行政に対してどのような取り組みを望めますか。重視して進めるべきと考えるものを選んでください。

(回答チェックは3つまで n=328)

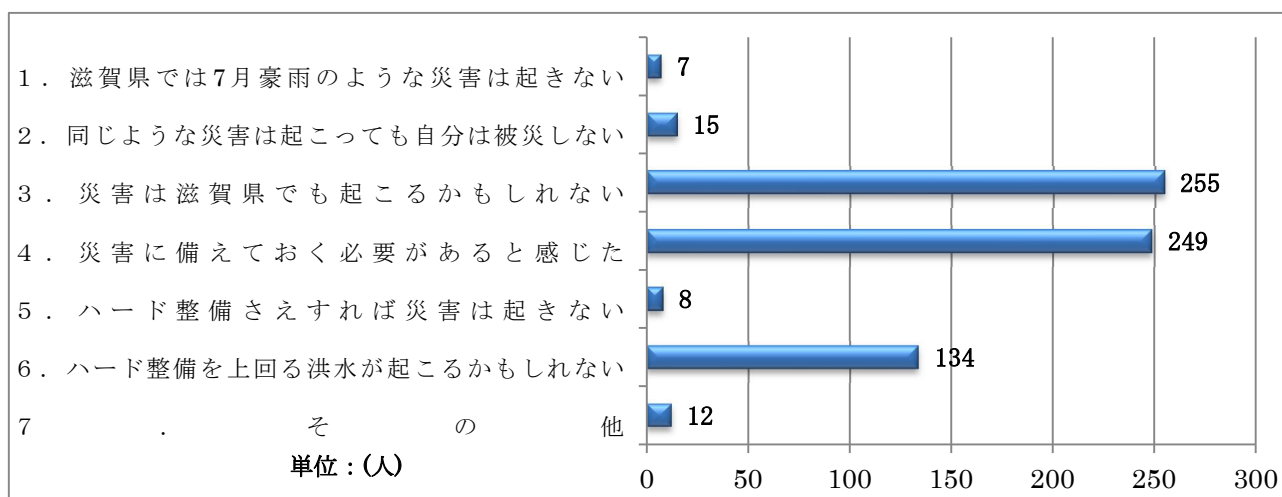
項目	人数(人)	割合(%)
1. 消防団や自主防災組織等の育成強化	53	16.2
2. 洪水が発生した時の対処方法を学ぶ定期的な訓練	81	24.7
3. 洪水が発生した時の避難場所や避難経路が分かる地図などの情報提供	108	32.9
4. 河川の水位や雨量など危険を知らせてくれる情報	147	44.8
5. 学校等での防災教育	63	19.2
6. 避難道路や避難拠点施設などの整備	82	25.0
7. 雨水貯留や浸透舗装など、雨水が川に流れ込む量を少なくするための整備	74	22.6
8. はん濫しにくくするための河川の整備	132	40.2
9. 川の中に繁茂した草木や土砂などの撤去	90	27.4
10. その他	13	5.2



問 14 近年、全国各地で水害や土砂災害が発生しており、今年には平成 30 年 7 月豪雨（西日本豪雨）が発生し、甚大な被害が生じました。これらの災害から感じることに、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。

(回答チェックはいくつでも n=328)

項 目	人数(人)	割合(%)
1. 滋賀県では7月豪雨のような災害は起きない	7	2.1
2. 同じような災害は起こっても自分は被災しない	15	4.6
3. 災害は滋賀県でも起こるかもしれない	255	77.7
4. 災害に備えておく必要があると感じた	249	75.9
5. ハード整備さえすれば災害は起きない	8	2.4
6. ハード整備を上回る洪水が起こるかもしれない	134	40.9
7. その他	12	3.7



問 15 水害や土砂災害の被害を少なくするため、個人や地域ではどのようなことに留意する必要があると思いますか。御意見がありましたら記入してください。

[主な回答]

【個人で留意すること】

- 風水害の情報がでた段階で、貴重品、避難用具、を玄関に備える。缶詰等を一週間程度の備蓄し、10L程度備蓄する。
- 避難の遅れは自己責任と考え、早めに避難を心掛けなければと感じた。
- 何時でも避難できる体制を取っておくことと、家族間の連絡方法の確認。
- 災害はいつでもどこでも起こりうるとの心がけで天気予報などの情報をもとに身の回りの危険度を常日頃から観察を怠らない気持ちを持ち続けたい。

- 被害に合った際に、家族でどこに集まるか、伝達手段などをあらかじめ確認しておく必要があると思う。
- 人間は自然災害には勝てない。日頃からの準備が大切。
- 救援活動が本格化するまで、おおよその数日間は自力で生活できるように努めたい。
- 行政が避難場所や防災マップ等を準備するのはもちろんのこと、各家庭でも避難経路の確認や防災用品の準備をすることの必要性を感じている。
- 個人としては、非難する基準を設けておくことかと思います。まだ大丈夫と考えて逃げ遅れている人が多いので。
- 住んでいる土地の昔の地形を学ぶ必要がある。
- 自分の地域がどのような地域か確認する、家族で避難場所を確認しておく、避難について情報を得ておく。親子で訓練などあればいいなと思います。
- 自分が加入している火災保険の内容をよく理解しておくことで、被害にあった場合でも、対応してもらえるので安心。
- 避難するタイミング、基準をみあやまらないよう、普段から地域や家族の中で情報共有し、コミュニケーションをとる。また平時の水位、水量など、数値ではなく、目視でも確認しておき、異常事態だと判断できるようにしておく必要がある。

【地域で留意すること】

- 地域での防災訓練は、休日に実施されることが常となっているが、一番怖いのは、動ける成人が少なく、家族が別場所で行動している平日の昼間かと思う。なかなか自治体単位では平日に訓練を行うことが難しいため、例えば県が毎年実施する防災訓練を平日にシフトしていただく等、地域・学校・行政・企業等が一体となった訓練をしていただけると大変有難い。
- 普段から、隣近所のお付き合いをしておき、万一の祭は、互いに助け合う風土が必要と思われまます。
- 防災訓練などに家庭だけでなく、地域で積極的に参加して備えることは良いことだと思う
- 災害中も災害後も 地域の人(仲間)が居ればなんとかなる……と思える関係作りが必要。
- 日頃から地域の方々と連絡しながら、防災訓練を行ったり災害が起きた時の高齢者の声掛けの担当を決めておいたりして、行政に頼り切らない連携体制を作っておくべきだと思います。
- 地域では、安全確認や、情報を流すための連絡方法を確立しておくことが必要だと思います。
- 洪水を想定した訓練を町内で実施する。実際避難所まで歩き、そこまでの経路のリスクを町内の人々自ら考えることが大事。

- 団地でハザードマップを作成した。小地域毎に作成し日頃から防災意識を高める注意喚起が大事だと考える。定期的な巡回や、危ない箇所を随時直していくことも必要だと思う。
- 日頃から地域のコミュニケーションをはかり、危険情報を速やかに入手し、周囲と声掛けして、行動に移す。
- 平時でも自ら動くことが困難な方は、水害や土砂災害が予想されるような場合避難しようとしても、一人ではできないことが予想される。日頃から近隣の方や自治会、社会福祉協議会等の方々との連携づくりなどが大切と思う
- 情報共有がスムーズにできるよう地域のコミュニティを強化することが大切だと思います。

【その他】

- 災害を予防することは可能であるが、無くすことは出来ない。
- 早期避難が重要であると考えます。特に避難場所の確認と、警報・避難勧告等の行政からの情報提供が重要であると考えます。
- 大水から逃げられない住民の救済方法を、今すぐに、実行して欲しい。
- 情報は放送では風などで聞こえないのでスマホか何かで連絡してほしい
- お年寄りの個別避難方法を作成する必要があると感じる。
- 保水性や浸透性のある道路材料が、どこでも使われるように、費用面でそれ以外の材料が選択される事がないようになれば良い。
- 田畑や街路樹、公園、庭など、雨水を貯留、浸透する面積を、それ以外の面積に対して一定以上確保して欲しい。
- 土砂や刈草、ゴミをできるかぎり川に流さない。
- 川流れを妨害している障害物を取り除く運動を進める。
- 最近の気象予報や情報は精緻で正確である。それだけに個人も地域コミュニティー（学区や自治会）も日頃から防災感度を磨き、知識や備えを十分にしておくことが肝要である。梅雨入り前や台風シーズン前等には個人も地域コミュニティーも家の周りや地域の河川などの点検をし、また避難場所と避難経路、避難準備品の確認をしたいものである。地域の側溝や河川の清掃活動が定期的実施されるが積極的に参加し近所世帯との連帯感も深めておくことも大切である。特に高齢者世帯を認識しておき、万一の場合に誘導支援することも大切である。なお、個人家屋の豪雨被害に備えた損保加入は有効であろう。
- 先祖代々からの家だからとか、今迄大丈夫だったとか、誰が見ても危険な場所に住んでいる人達が居るが、自然現象が昔と変化して来てる事を認識して安全な場所に移り住む事をしないと災害に遭う。災害の起こる度に行政の責任が問われるが危険地域に住んでる者の自己責任である事を認識すべきである。